

場の言語・コミュニケーション研究会

設立趣意書

2013年1月26日

1 設立趣旨

言語及びコミュニケーションを場の視点から研究することを目的とする研究会である。場の視点というのは、広い意味では、要素還元主義、デカルト的二元論を超えた主客非分離、自他非分離の立場に立つ一切の理論を包摂するが、狭義においては、複雑系における自己組織化現象として言語を捉える考え方であり、本研究会は、基本的に複雑系科学の視点に立脚しながらも、幅広く場の視点に立って言語・コミュニケーションの本質を探求することを目的とし、本日、「場の言語・コミュニケーション研究会」として、これを設立する。

2 実施主体

現在、2011年度から2013年度までの3年間の予定で行っている科学研究費補助金の研究課題「言語とコミュニケーションにおける場の理論の構築：近代社会の問題解決を目指して」の研究グループが中心となるが、この趣旨に賛同する研究者にも幅広く参加していただき、2014年度以降は、引き続き科研費の申請を行い、引き継ぐ予定である。研究会代表は会員の互選とする。

3 開催要領

年4～6回程度開催し、研究結果も踏まえて、認知言語学会などの学会で報告するとともに、科研費研究の成果として、同科研費研究のHPを通して公表する。

4 事務局

研究会事務局長岡智之が勤務する東京学芸大学にこれを置く。事務局長が海外勤務の間は、科研費研究メンバーが適宜事務局の仕事を代行する。

5 個人情報

会員相互の連絡のため、会員はお互いのメールアドレスを開示する。本メールアドレスは、お互いに本研究会の目的のみに使用し、他にこれを開示する場合は、本人の承諾を得るものとする。HP開設後は、会員向け専用ページを設け、会員内において必要な情報交換は、同ページにおいて行うこととする。

場の言語・コミュニケーション研究会 設立総会議事録

開催日時 2013年1月26日午後5時～6時
開催場所 早稲田大学西早稲田キャンパス26号館（大隈タワー）301号室
出席者 大塚正之、井出祥子、岡智之（以上主催者）、永田鎮也（特別講演者）、林吉郎、新村朋美、小柳昇、梅野健、岐部慶子、河野秀樹、高橋道子、岡崎智己、ベンジャミン・ボアズ、山下美樹（以上一般参加者）

1. 研究会設立趣意書の採択

科研費研究グループ代表の大塚正之より、趣意書の趣旨説明。

議論の中で、参加者から「場の言語研究会」という名前では、「言語」のみを対象とするのかという質問が上がり、趣旨としては、言語にとどまらないコミュニケーションの研究も含めると説明し、会の名前として、「コミュニケーション」を入れることが提案された。後の役員の議論で、「場の言語・コミュニケーション研究会」と改称することに決定された。

2. 研究会代表・役員を選出

研究会代表を大塚正之、事務局を岡智之（長）、櫻井千佳子、渉外を井出祥子が担当することが提案され、承認された。事務局長が海外勤務の間は、櫻井が代行する。

3. 今後の方針

隔月で、研究会の例会を行い、9月に認知言語学会ワークショップ、1月頃シンポジウムを開催することが提案され、これらの具体的な内容については今後、検討することになった。3月の例会は、清水博先生（場の研究所所長）に講演をして頂く方向で打診。

4. その他

研究会のHPを開設し、研究成果を公表するとともに、会員相互の連絡調整のため、会員専用ページを作る。研究会の趣旨に賛同する方に会員として登録して頂き、必要な情報を交換する。

(以上)